

カトリック幼稚園めぐり 愛媛地区 神の愛に包まれて

今号は幼稚園めぐりの最終回として、愛媛地区にある13の幼稚園のうち、聖カトリック短期大学部附属幼稚園、聖マリア幼稚園、ロザリオ幼稚園、若葉幼稚園の4園を紹介します。

聖カトリック短期大学部附属幼稚園

聖カトリック短期大学部附属幼稚園は、1971年(昭和46)年3月26日に聖カトリック女子短期大学の実習施設として同キャンパス内に開園し、第1回の入園式には14名の園児を迎えました。学園の初代理事長故上妻久恵シスターが園長を兼務され、第2代別府シスターが縦割り・横割り保育の併用、モンテッソーリ導入等の園生活の基礎を整えられ、故城戸、竹田、布袋、久保、神林、後藤の各シスター方と短大教員5人が園長を引き継ぎ今日に至っています。



「子どもたちに「祈りの心」を伝えることの大切さと難しさを日々感じています。」「お外で遊ばすように」「○○ちゃんと給食が食べられますように」から「ママのお腹が早く治りますように」と祈ることができた3歳児の成長を嬉しく思っています。



敷地内には聖ドミニコ宣教師会の御聖堂があり、折にふれてこの「神様のおうち」を訪れ、神父様やシスター方からのお話や、月の誕生日会にはシスターが来園され、お話を聞かせていただいています。教職員は、「自分で学びとる力」を援助しながら、温かく優しい心を育て卒業式の日を迎えられるよう、日々関わりを重ねています。

2012(平成24)年4月に、第2代理事長Sr中田婦美子シスターがかねてより谷崎新一郎神父様に依頼をされていた園歌が届き、50周年の記念としてHPに掲載しています。

聖マリア幼稚園
今年度当園は創立86年目を迎えています。
1937年(昭和12年)

リ教育を導入し、縦割保育を実現して約30年になりました。異年齢の中で育つ子ども同士の間を繋ぎ合わせるのも、いつも気づかされるのは、やさしさは伝染するということ。縦割保育なら、子どもたちの心の成長を目的にしながら、本当に感動の毎日を送っています。時代とともに少子化の影響から、園児減少が続いていますが、これからの一人でも多くの園児・保護者に神さまの存在を伝えていく宣教の場としての役割を、果たしていくことが出来ますように。

ロザリオ幼稚園

学校法人聖カトリック学園は、2025年に学園創立100周年を迎えます。同園のロザリオ幼稚園の創立は、緑あふれる石手川を背景とした現在地に創立された前身の拓川幼稚園に始まり、1965年(昭和40年)に幼稚園教員養成所を必要としていた聖カトリック学園が吸収合併し、園名もロザリオ幼稚園と改められました。本園は、日々の保育において、神様からの贈り物である子どもたち一人ひとりに心を留め、子どもたちが教師や友だちとの温かい関わりの中で、他者を大切にし、奉仕する喜びを味わい、自分で考えて行動できる正しい判断と責任感、自立心、平和な心を育むことを教育指針とし、特に心の教育に配慮しながら人格



形成の基礎づくりを目指して、教職員一同個々との関わりを大切にしています。平成3年度からはモンテッソーリ教育を導入し、異年齢混合縦割りクラスを基本として、年齢別横割り保育を行い、子どもたちが相互に刺激を受けながら協調性や社会性を身につけるとともに、整えられた環境の中で、子供たちが主体的に活動しながら「自分で学ぶ力」「生きる力」を身につけるように援助しています。



もうすぐ創立60周年を迎え、卒園生の数も6100名を超えようとしています。子どもたちは、松山市を含め5市町、20を超える校区から通園しています。卒園後も子どもたちとの繋がりを大切に、毎年、卒園児との交流である同窓会(こひつじ会)を行い、今年も小学1年生から中学3年生までを3回に分けての同窓

会を行い、楽しい一時を過ごしました。卒園した子どもたちが、教師として、保護者として再びロザリオに戻ってきてくれることを大へん嬉しく思い、ロザリオファミリーとしての絆を感じ、心から感謝しています。

若葉幼稚園
ロザリオ学園若葉幼稚園は、しまなみ海道のさわやかな風薫る今治市に位置します。周囲には、病院、官公庁、そして、数多くの事務所が混在しています。園庭にはクスノキの大木が根を張り、四季折々の表情を見せてながら子どもたちの豊かな感性を育てています。

今年で創立89年を迎えた当園は、スペインの聖ドミニコ修道会、ロザリオ管区の司祭により1934年にカトリック幼稚園として設立されました。創立以来、地域の皆さまに愛され親しまれながら、今までに約1万人近くの卒園児を送り出してきました。現在は、当園のチャプレンである郷文成神父様にお導きいただきながら、神様の愛に包まれたしあわせな子どもたちが、皆で仲良く充実した毎日を送っています。

子どもたちは日々の園生活の中で、神父様から神様のお話を聞かせていただいたり、マリア祭やクリスマスミサなどの行事やお誕生日の祝福をしていただくことにより、心の中に「いつも神様に守られている。」

も皆がしあわせに過ごすことが出来ますようにと、心から願っています。

海の星幼稚園チャプレン 川上栄治神父から
幼稚園での教会礼拝
タイトルの文章はわたしがチャプレンを務めている海の星幼稚園での行事の名前です。この行事を行う理由は海の星幼稚園に教会が隣接していないからです。

わたしは5年前海の星幼稚園のチャプレンになった時、ロザリオ学園の理事長から「海の星幼稚園の園児たちは聖堂でのお祈りが身についていない。だから1学期に1回は教会での祈りを園児たちに体験させてほしい」と頼まれて、始まったものです。

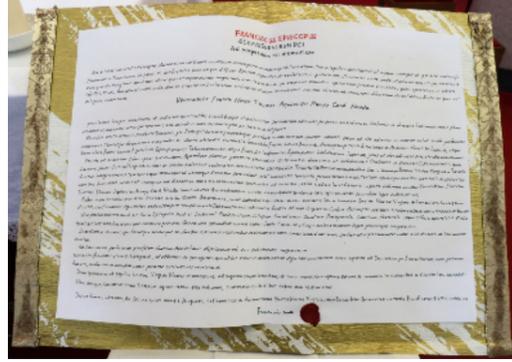
海の星幼稚園は現在200名ほどの園児が在籍しており、園児全員が教会礼拝に来るのは無理なので、年長児だけが教会礼拝にやってきます。それでも70名程度いるので、祭壇でお辞儀をして席に座るマナーを教えるだけでほとんどの時間を費やし、わたしが話をできる時間は5分ぐらいです。それでも、わたしは園児たちに少しでも聖堂で時間を過ごすことで信仰の種を蒔くことができると信じています。幼少期に体験したことは必ず何らかの実を結ぶからです。

◇教区スケジュール◇

- 1月
- 1日(月) 神の母マリア
- 7日(日) 主の公現
司牧者集会(7日~8日)
- 8日(月) 主の洗礼
成人の日
- 14日(日) 年間第2主日
- 18日(木) キリスト教一致祈祷週間
(25日まで)
- 21日(日) 年間第3主日(神のことばの主日)
- 25日(金) 聖パウロの回心
- 28日(日) 年間第4主日
世界子ども助け合いの日
- 2月
- 2日(金) 主の奉献
- 3日(土) 福者ユスト高山右近殉教者
- 4日(日) 年間第5主日
- 8日(木) O P T T(大阪高松プロジェクトチーム)会議
- 11日(日) 年間第6主日
世界病者の日
- 14日(水) 灰の水曜日 四旬節愛の献金
- 18日(日) 四旬節第1主日
- 22日(木) 聖ペトロの使徒座
- 23日(金) 天皇誕生日
- 25日(日) 四旬節第2主日

新教区設立の大勅書概略

私は、慈しみにより世界中の教会の善のために務める中で、愛する日本の教会の皆様の必要にも目を向けている。敬愛すべき兄弟トマス・アクィナス前田万葉枢機卿の要請を受け容れ、現代世界での霊的、社会的、文化的状況を考慮し、私は大阪大司教区と高松教区を完全に統合し、両教区の領域を合わせることによって、一つの新しい教区を確立することを定める。全ての関連事項を検討し、福音宣教省の助言と関係者全員の意見に基づき、私は駐日ローマ教皇大使である敬愛すべき兄弟レオ・ボッカルディ、高松教区名誉司教であり敬愛すべき兄弟使徒ヨハネ諏訪榮治郎、日本カトリック司教協議会会長の意見も踏まえ、私はこの決定を受け容れるように命じる。



このようにして統合された新しい大司教区の座を大阪に定め、そこに現存する無原罪の聖母マリアに敬意を表して、神に捧げられた教会の尊厳を確認し、同時に高松に現存する被昇天の聖母マリアに捧げられた教会とともに司教座の称号をもつ聖堂とする。今後、教区事務所を一つのものとし、教会裁判所、顧問会、司祭評議会、司牧者評議会、その他教会法に規定されている全ての教区の機関を一つのものとするように求める。統合される二つの教会区域のそれぞれに在籍していた司祭と助祭はこの統合によって誕生する新しい大司教区に移籍する。新大司教区に属する神の民が、聖母のとりなしにより常に崇高なものに心を向け、この世のあらゆる腐敗から免れ、キリスト・イエスによ

て天にまで至ることができるように、神に願い求める。最後にこの大勅書がこれに反するいかなるものにもかかわらず、永久に有効であることを求める。

この文書は、2023年教皇在位第11年目の聖母マリアの被昇天の祭日である8月15日に、ローマのラテラノ教会で公布された。

教皇フランシスコ

地区・ブロックの話題

愛媛地区

諏訪名誉司教による初聖体祝福とクリスマスミサ

諏訪名誉司教は、2022年9月の退任以来、愛媛地区南予ブロック(宇和島・八幡浜教会)の司牧を担当されています。主日ミサは、2週ごとに両教会で午前、午後と時間差をとって開催します。定住する宇和島教会から高速道路

路を通り、途中でベトナム実習生の数名を同乗させて八幡浜へ向かいます。凡そ1時間を要します。小教区担当ともなれば、着任後まもなくから葬儀や納骨式、入門講座を担当され、小学生の初聖体の準備講座もなさいました。移動典礼聖品のボックスをマイカーに積み込み、最先端の宣教地さながらです。



八幡浜聖母幼稚園ホールでの降誕祭ミサの様子

の親族9名が、フィリピンから来日し、ベトナム研修生も侍者を行い、日本人7名の小さな教会の定員20名の聖堂には入りきれない人が集まり、八幡浜聖母幼稚園ホールを借りて、ミサが行われました。ミサの入堂聖歌の「しずけき」が日本語、ベトナム語、英語で歌われ、閉祭も「もろびとこそりて」が日本語、英語で歌われました。ミサ後には、フィリピン料理も振舞われて、国際色豊かな集いでした。

者だけでは対応できません。来日外国人と日本人信者の交わりとミサ開催場所の工夫は、日本の地方の小さな共同体における今後の宣教の重要な論点かもしれません。新しい年が災害と大事故の報道で始まり、問われる日々が始まりました。

東讃ブロック

桜町教会で前田大司教主司式の降誕祭ミサ

2023年12月24日(日)午後6時よりカトリック桜町教会「主の降誕夜半のミサ」がトマス・アクィナス前田万葉大司教の主司式で執り行われました。

2023年12月24日(日)午後6時よりカトリック桜町教会「主の降誕夜半のミサ」がトマス・アクィナス前田万葉大司教の主司式で執り行われました。

これには約200名の参列者がありました。ごミサは、入堂前に西川康廣助祭がごもたちとともに幼子イエスを祭壇の前に安置し、始められました。

前田万葉大司教は、あいさつで『みどりの心にならいたがう聖夜かな』と句を披露し、説教で待降節を振り返りながらこの句の意味について話されました。以下は説教の概要です。

待降節を第1主日から第4主日までそれぞれ思い起こしてみましょう。

待降節第1主日 『なれかしと幸いなるやク』

待降節第2主日 『アドベントクランツひとつともりけり』

『アドベントクランツひとつともりけり』

待降節第3主日 『主の道や喜び祈り感謝せよ』

『主の道や喜び祈り感謝せよ』

待降節第4主日 『おことばどおり、この身になりまますように』

『おことばどおり、この身になりまますように』

リスマス

わたしは先日フィリピンから帰ってきたばかりですが、フィリピンはクリスマス一色でした。フィリピンでは、教会全体が馬小屋の洞窟のよう

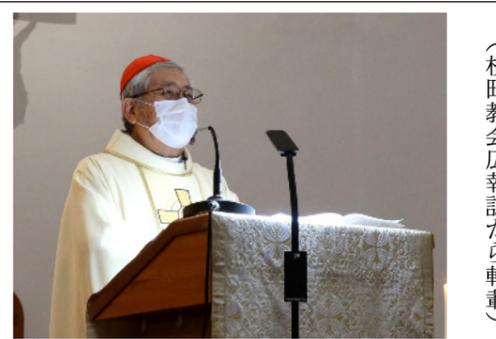
です。また、それぞれの家で自分の牛小屋を馬小屋にしてクリスマスを迎えます。ちょうど今から800年前の1223年に、聖フランシスコはイタリア中部のグレッツォという町で馬小屋を作るのに適した洞窟を探し、そこに牛とロバを連れて行き、干し草と飼い葉桶を置いてベツレヘムの洞窟を再現しました。

今、世界は大変な状況にあります。神さまは自分の命をみどりの姿でお与えになりました。わたしたちは命の糧を、ごミサでいただいで、神さまの命にあずかり、救いにあずかります。このことは「もったも小さな者にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」「もったも小さな者にしてくれなかったことなのである。」「つながります。日本は馬小屋を忘れてきたかもしれません。わたしは長崎の五島列島の出身ですが、五島でもこの時期はクリスマス一色で、教会の馬小屋作りでは木を切って立派な馬小屋を作ったことを思い出しました。ご降誕の聖夜ミサでは、必ず馬小屋の前に連れていかれ、親からその意味の説明を受けて祈りをしました。

飼葉桶は動物の餌桶であり、そこにみどりの心は置かれます。

『馬小屋をおがみし母子父もいて』

『クリスマス天に栄光地に平和』



(桜町教会広報誌から転載)